

韓国忠南大学の見学だより

水利工学研究領域 水利制御グループ長補佐 中矢哲郎

11月17日(木)に、韓国忠南大学の安准教授、李教授、学生2名を含む4名のみなさんが、当部門を訪問されました。訪問の目的は、パイプライン、ファームポンド等の農業水利施設管理や自動給水栓など ICT 水管理に関する研究の見学です。

はじめに、桐水利工学研究領域長より『農村工学研究部門・水工分野の ICT 技術の紹介』の説明がありました。

次に、水田圃場に移動して、農地基盤工学研究領域農地整備グループ鈴木翔主任研究員より、『WATARAS の紹介』がありました。

続いて頭首工第1実験棟に移動して、『ICT 水管理の紹介』のうちパイプラインシステムの説明を、水利工学研究領域水利制御グループ・人見忠良主任研究員が行いました。次に風洞造波実験棟に移動して、開水路システムの説明を藤山宗主任研究員が行いました。

最後に、水路工実験棟に移動して、水利工学研究領域水利制御グループ・中田達主任研究員より、『水門監視システムの紹介』がありました。

意見交換では、今後韓国において整備を進める予定のパイプラインの導入方法や活用方法、調整池の設置に関する手法、水管理システムの節水の効果、畑作への ICT 水管理システムの適用状況、導入コスト、管理設備の管理体制など幅広く質問がありました。韓国は日本同様に、水管理の省力化、効率化、高収益作物への適用が喫緊の課題であり、今後の課題は節水への対応や広域への展開などであることをお互い確認し見学会を閉会しました。



WATARAS の説明状況



水門監視システムの説明状況